

日本酒の熱処理工程に、 イノベーション。 プレート式熱交換器を 活用して品質を高め、 ブランディング強化とも連動



Trigger

取り組みの
キッカケ

市販酒も、鑑評会レベルの味わいに— ポイントは、熱処理工程の短縮・改善

古殿に根ざし、全国規模の鑑評会で受賞歴を重ねるなど地酒メーカーとして地歩を固めてきた当蔵は、さらなる付加価値づくり、ブランド戦略の新展開を見据えています。

「これぞ豊国酒造」と日本酒ファンを魅了する飲み口は、フレッシュな果実を思わせる芳醇さ、絞りたてを彷彿させる淡麗な甘味です。こうした奥深い味わいをアピールして福島県内のみならず県外・海外へ販路を拡大する上で、技術的な課題とされたのが熱処理工程の短縮・改

善でした。

これまでの蛇管式だと、貯蔵および出荷に先立つ段階で時間を費やし、本来の持ち味を損ねてしまう懸念がありました。その解決策が、プレート式熱交換器で殺菌方法を革新すること。熱処理に伴うダメージを大幅に防げるとともに、著しい時間短縮もメリットに挙げられます。



Plan & Action

計画と
実施状況

1台を貯蔵時・出荷時の熱処理に併用できる。 官能評価は、福島県ハイテクプラザで

機器を選定する際、とりわけ重視したスペックは、最大加熱温度・制御温度・昇温処理能力です。いよいよ春を迎え、酒造期間を終えた後に速やかに据付が完了するよう準備を済ませました。

自動制御盤の操作について、現場スタッフへ確認・徹底を図っています。キャスター付なので1名で移動させ、貯蔵時・出荷時の熱処理に併用できるのは大きなメリットです。タイミングを見計らって作業できるので、生酒である期間が長引いて酒質が劣化するのを防げます。

実際に清酒を流し込んだ動作テストでは設定温度ま

で正確に達すること、温度上昇スピード、そして1時間の処理量などを確認しました。次いで、プレート式熱交換器を導入する前・後の製品を比較するための官能評価は、福島県ハイテクプラザ・会津若松技術支援センターで実施しています。



飲料・たばこ・飼料製造業

豊国酒造合資会社

Company Profile

☎ 0247-53-2001 ☎ 0247-53-2070
〒963-8305 福島県石川郡古殿町竹貫114
🌐 <http://azuma-toyokuni.com>
✉ mail@azuma-toyokuni.com

Company outline

8代に渡って端麗な美酒を育み続ける当蔵は、江戸時代の天保年間（1830～1844）に創業しました。白河から勿来へ通じる御斎所街道に臨み、白壁と緑の佇まいを見えています。地元・古殿をはじめ各地で愛飲されている普通酒「東豊国（あずまとよくに）」が代表銘柄です。南部杜氏が手がける珠玉の銘酒は、かずかずの鑑評会で栄えある賞に輝いてきました。これまで培ってきた技術と実績を活かし、さらなる酒質の追求に加えてブランディング、国内外での販路拡大にも意欲的です。



代表社員
矢内 定紀



Outcome 得られた 成果

新しい製法で、マンパワー再編。 商品開発・営業にもプラス効果を生み出す



設備投資の成果として、スピーディーな熱処理が挙げられます。これまでなら製造後、生酒のまま1～3ヵ月ほど待機期間を要しましたが、プレート式熱交換器の導入後、製造から約1週間で工程を進められます。熟成し過ぎ

て味わいが劣化するのを抑え、澄んだキレを伴う甘味を残せます。

最適な熱処理温度「品温65℃」へ約12秒で達することも確かめられました（蛇管式は約210秒）。熱によるダメージを抑え、素早く殺菌できるのでフルーティーな芳醇さ、華やかな香りを醸し出せます。

作業工程のマニュアル化、スピーディーな製造・出荷態勢が整い、マンパワーの再編・再配分も顕著です。さまざまな経営資源の有効活用を通し、商品開発・営業活動との好循環が生まれています。

Next plan

今後の
活動計画

県外・海外へのプロモーションと販路拡大。 味わいが引き立つ愛飲スタイルの提案も

純米吟醸酒「一歩己（いぶき）」が、豊国酒造の新たな歴史を彩ります。

鑑評会で積み重ねてきた実績、さまざまな逸品を手がける蔵元イメージを踏まえ、より高い次元で日本酒の世界を表現しました。本物の価値を求めるマインドに応え、県外・海外へのプロモーションと販路拡大に努めます。著名料理人とのコラボレーション、ワイングラスへ注ぐ愛飲スタイルなどの提案も考えています。

ブランドの浸透を図りながら、酒蔵ツアーのビジター層も広く取り込みます。「一歩己」や「東豊国」ほか銘酒の製造元として受け入れ態勢を整え、地元・古殿の観光キャンペーンや地域経済への貢献度を高めていきます。

さらに雇用創出を視野に入れて「酒づくり」の魅力と成長性をアピール、とりわけ若者世代の定着に役立ちたいと考えています。

